

綾瀬事業所 開所式 代表挨拶

皆さん、こんにちは。

高千穂システムエンジニアリング株式会社、代表の山嵯でございます。

本日は世の中で言う3連休の初日であるにも関わらず、当社、綾瀬事業所の開所式へお越しいただき、誠にありがとうございます。本事業所開設にあたり、ご来賓の方々、従業員・ご家族の方々に改めまして本事業の概要をお話させていただきます。

昨今、世の中を取り巻く環境は急激に変化しています。

その中で当社はこれからお話する社会的課題にチャレンジし、本日新たなスタートを切ろうとしています。

その課題とは少子高齢化をはじめとした社会構造の変化、あるいは後継者不足です。

今般の本事業所開設理由は機械加工事業を営んでいた有限会社ヨコトクマシンツールの事業を承継したという事にあります。

あまり年齢のことを言ってもはいけませんがヨコトクマシンツールの伊奈社長は団塊の世代でいらっしゃるって、年間出生数はなんと約270万人もいました。残念ですがこの世代の方々がいよいよ、ご引退の時期を迎えているという事です。では今年の出生数は？というところ約72万人しか生まれていません。三分の一以下です。私は昭和53年生まれですが出生数は約170万人でした。それと比べても半分以下です。

もう、これから恐ろしいスピードで我が国は萎んでいくと思います。

では我々はどうしていくのか？他人事では済まされません。

皆さんご存じの通り、元々、当社はプレス関連事業を行っている中でリビルトプレス機の需要が年々増えています。これも物価高、EV化も含めた社会的・産業的構造の変化によるものだと思います。リビルトプレス機の製作過程の中で機械加工工程は扇でいう要となっていてヨコトクマシンツールの機械加工事業とはシナジー効果を発揮でき、互いに量産を追いかけている事業形態ではなく、1品物、メンテナンス物を丁寧に扱っているという特徴があります。年々、町工場がなくなっている現状においては、こういった受け皿になり得るというわけです。

奇しくも本事業所の前身の会社は自動車メーカー、ティア1クラス向けに大型金型を製作していた金型屋さんでした。しかし、昨年12月に倒産してしまい、これも産業構造変化などの最たるものです。そして、管財人である弁護士の先生とお知り合いになったことから、この工場を整理・片付・改築して社会的課題にチャレンジする新事業所となった訳です。

当社の経営方針でもありますがそれぞれの会社には多かれ少なかれファンがいます。

「これまでの高千穂システムエンジニアリング、ヨコトクマシンツールのファンの皆様に裏切らない様、精一杯、邁進して参りたい」ということをもちまして開所のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

2024年11月2日大安
高千穂システムエンジニアリング株式会社
代表取締役 山嵯 喜隆